

ふるさとの魅力を伝え、人物を再発見

当館は平成28年10月、市民に先人達の偉業を知り、ふるさとを愛する心や誇りを再発見してもらうことを目的に、近代前後に活躍した市ゆかりの人物を紹介する「南アルプス市ふるさと人物室」をオープンしました。各分野において活躍された人物一人一人に焦点をあて、年2回展示しております。これまで東京タワーを設計した建築家・内藤多仲氏をはじめ7人の展示を行いました。今後も新たな分野で活躍した人物を取り上げる予定です。

また、図書館内の「ふるさと室」には、郷土本と併せてふるさと人物室に関連した資料のコーナーもあります。

お近くにお越しの際は「東京タワーのある図書館」へ、ぜひお立ち寄りください。
(南アルプス市立中央図書館 ふるさと人物室担当 矢吹一美)

南アルプス市立中央図書館編

南アルプス市
ゆかりの人物

光庭「未来テラス」

図書館ボランティアの日常から



Vol.6 本の配架と案内

今年度の協力員84名中56名と、一番多くの方が活動されているのが「案内・書架整理」分野です。返却された本を棚へ配架したり、本を探している人の案内役をしています。協力員の方からは「絵本は棚が低く、立ったり座ったりするので意外とエクササイズになる」との感想をいただいたり、「配架しながらいろいろな本に出会えてうれしい」との声もあって、こちらもありがとうございます。

(図書館協力員担当 三森)

Information

2021年度これからのイベント

5月 水曜日 5日 こどもの日のための
腹話術とパペットショー

子どもも大人も一緒に楽しめるGW特別イベント。リトミックに腹話術、そして、パペットたちの合唱など盛りだくさんの内容です。

6月 日曜日 13日 シネマかいぶらり
『五億円のじんせい』

幼少期、5億円の募金で手術を受けた望来(17歳)。自分は5億円にふさわしい人間かもがき、旅に出る。その先に待つ発見とは—。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、延期または中止となる場合があります。

副館長
河手由美香
のひとこと箋



人生に図書館を

特別な日常の連なりは、すでに日常になりました。その中で新しい年度が始まりました。どんな時も、未来に向かって進むことだけは変わらずに続いていきます。県立図書館は、皆様が思い描く未来に向かって進むその道を照らすために、今日もご利用をお待ちしています。

読書
山梨



YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

山梨県立図書館報
149
2021.4.1 発行

感想戦

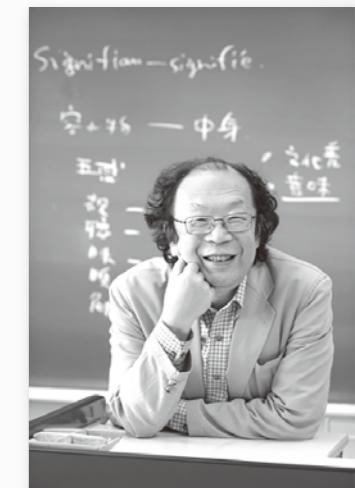
館長コラム

コロナ禍の前、やたら忙しかった。自分の事務処理能力に比べて、引き受けてしまった仕事量が多すぎたのだと思う。ひとつの仕事をやっと終えると、休む間もなく次の仕事の期日が来てしまうのだ。

海岸で波打ち際に立って、潮が満ちてくる。波が打ち寄せる。ジャンプして、波を越す。ほっとする間もなく、次の波が押し寄せてくる。矢継ぎ早に、休めない。そうしてまた飛び越える。油断すると塩辛い水をたっぷり飲まれる。きりがない。いつ波に呑まれてもおかしくない。そんな風に暮らしていた。

将棋の対局にはその後に感想戦ということがある。ああすればよかつた。こうすればどうだったのだろう。いろいろ考える。本番よりも感想戦の方が楽しいくらいだ。仕事には感想戦をする時間が欲しい。

今や、時間はたっぷりある。感想戦ばかりしている。ちょっといい。



撮影/タカオカ邦彦

会員一言稿

本と人をつなぐ

第6回 本の消毒

新型コロナウイルスの流行から早1年。まだ収束の兆しがみえない現在ですが、県民のみなさまにこれまで通り図書館の本をご利用いただけるよう、毎日午前と午後の2回、スタッフ数名による本の消毒を行っています。カウンターに返却された本はすべて、1度丁寧にアルコール拭きをし(CD・DVDも専用スプレーで除菌)、乾燥したのち棚に戻しています。

1階の北側出口前には、紫外線による除菌BOXもありますので、ぜひご活用ください。

(企画振興担当 三森)

山梨県立図書館の貴重資料をご紹介!

明治25年「甲陽新報」 樋口一葉の新聞連載



『経づくえ』
第1回が掲載された
「甲陽新報」明治25年
10月18日号の原紙綴り



山梨県立図書館では、通常の書籍のほか、明治や大正時代に県内で発行された新聞も保存しています。今回はその中から、本県にゆかりのある樋口一葉にまつわる新聞についてご紹介します。

樋口一葉は明治5年生まれ。彼女が20歳の時、「春日野しか子」というペンネームで地方紙「甲陽新報」に小説『経づくえ』の連載を開始しました。この新聞は、樋口一葉の記念碑を建立した益田勝俊氏と、当時山梨県立図書館職員だった上野晴朗氏により、昭和28年に館内で発見されました。平成2年開催の山梨県立文学館の企画展示「樋口一葉の世界」において、当館所蔵資料として展示されています。

過去の新聞をご利用の場合、主にマイクロフィルム、縮刷版、データベースをご案内しています。全国紙の原紙は一定期間保管した後廃棄しますが、貴重な地域資料である地方紙は後世に残すため保存箱に入れて保管し、閲覧する際には縮刷版かマイクロフィルムをご利用いただいております。必要な部分を印刷することもできます。マイクロフィルムのご利用は、現在1日1時間以内、同時利用を1名までとしておりますので、事前に電話等で利用状況をご確認ください。

地方紙のほか、一部の全国紙の地方版がマイクロフィルムになっています。過去の新聞は自分や地元の歴史をたどることもできる貴重な資料。大切に使って、後世に残していきたいものです。

(調査サービス担当 大平)



通常の書籍とは別の、貴重書庫に保管



2階で見ることができます

テーマ展示の報告

送る、届ける、つながる ～郵便制度150周年～

令和2年12月11日～令和3年2月14日

今年は郵便制度開始から150周年。前島密の後を継いで制度確立に大きな役割を果たした杉浦譲は、山梨県出身です。郵便の移り変わりや手紙の書き方等についての本を紹介したほか、郵政博物館からミニポストなどをお借りし、視覚的に楽しめた展示になりました。消息や気持ちを伝えることでつながる人と人。ペンを持って手紙を書くことも少なくなってきた今、これまで振り返ることで得られる何かがあるかもしれません。

(調査サービス担当 大平)

「文豪に学ぶ 手紙のことばの選びかた」 中川 越 東京新聞
「ゆうびんです!」 日本郵便オフィスサポート 株式会社 著 フレーベル館
「手紙 その消えゆく 世界をたどる旅」 サイモン・ガーフィールド 著 柏書房

明治～現代のポストの変遷
スタッフが一筆箋に手紙のおもいでを綴りました

この本が
好き!

図書館スタッフおすすめの1冊

「戒厳令の夜」

五木寛之小説全集 30・31巻
五木寛之 著 講談社



山梨県立図書館 次長
中村秀樹



幻の名画を巡る壮大なドラマ

「その年4人のパブロが死んだ」3人は実在した高名な画家、音楽家、詩人だが4人目は誰なのか?謎めいた出だしに思わず引き込まれます。主人公は偶然立ち寄った博多のバーで1枚の絵に出会いますが、それは第二次大戦中、戒厳令下のパリでナチスドイツに奪われ、行方が分からなくなっていた伝説的な画家(4人目のパブロ)のコレクションの1枚でした。その絵がなぜ博多に?多彩な登場人物。現実の歴史と虚構を巧みに織り交ぜて展開する壮大なストーリー。1976年発表の作品ですが、面白さは今も色あせない極上のエンターテインメントです。

県図書TOPICS

TOPIC1

贈りたい本大賞表彰式、 ねじめ正一氏講演会& 金田一館長とのトークショー

11月15日、第7回贈りたい本大賞の表彰式が行われ、4502点の応募の中から大賞、学校賞の受賞者に賞状が授与されました。表彰式後のねじめ正一氏の講演では同級生と放課後に読書会をした思い出が語られ、後半の館長とのトークショーも大いに盛り上りました。



(企画振興担当 奥秋)

TOPIC2

ことばのひろば アイヌチャチャチャ! 日本チャチャチャ!

「イランカラブテ!」というアイヌ語の挨拶から始まり、日本語とは違う独特のアイヌ語について学びました。また、この世のあらゆるものにカムイ(神)が宿っていると考えるアイヌの信仰について知ることができました。竹製の楽器であるムックリの演奏ではその響きに耳をませました。



(企画振興担当 小笠原)

TOPIC3

おはなし会を 部分再開しました

1月19日、限定3組の事前申込制で約1年ぶりに部分再開したおはなし会に、生後5ヶ月から1歳の親子が参加しました。時間を短縮し、職員はマスクを着けての読み聞かせでしたが、「あっ!」「うー」と子どもたちの反応もよく、手遊び歌でたくさんお餅を焼いて遊びました。



(子ども読書推進担当 小林)

TOPIC4

電子書籍が 大幅に増えました!

今年1月、新しく約2000タイトルを追加しました。来館されなくても3点まで貸出できます。スマートフォンやタブレットでの読書をお楽しみください。ご利用の際は当館インターネットサービスでパスワードとメールアドレスの登録をお願いします。



(企画振興担当 三森)